

提 案 概 要

実施期日	8月2日(火)
部会名	中学校 保健体育部会

1 提案テーマ

『生徒が主体的に取り組み、観る・気付く・伝える力を育む授業作り ～柔道の教え合いを通して～』

2 単元(題材) 武道 柔道

3 学年 第3学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

② 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を目指した指導と評価の工夫

5 学習指導要領との関連

第2章 第7節 第2 各分野の目標及び内容〔体育分野 第3学年〕 2 内容 F 武道 (1)

ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を展開すること。

6 実践に向けての課題意識

柔道は中学校で初めて経験する生徒が多く、1年生で柔道の経験を質問したところ『初めて』と答える生徒がほとんどであった。激しい対人スポーツである柔道に対して、『怖い・痛そう』や『どうやっていいかわからない』というマイナスイメージが先行していることも明らかとなり、そのイメージを払拭することが重要な課題となった。2・3年生においても少なからずマイナスイメージをもっている生徒がいたことから、より安全面に関する内容を定着させる必要性を感じていた。また、受け身・固め技などの基礎的な技能を習得しているだけでは、柔道というスポーツの特性を十分に理解し、安全に楽しむことは簡単ではないと感じている。

さらに、授業を実施した3学年は男女間のコミュニケーションが希薄であったため、言語活動を通して活発なコミュニケーションを取ることができるような授業を展開していく必要性を感じていた。

7 実践の概要

本校では3年間を通して柔道を学習しているため、3年目は特に生徒自ら『安全面』を考えて学習活動を行うことを最重点指導項目に掲げている。また学習してきた技能への理解を深められるよう、男女混合のグループ学習による教え合いを行った。各グループが、「学習してきた技能の安全な行い方」を他者に伝えることを目標にして取り組み、言語活動を活発に行うことができるような学習内容や学習場面を設定した。また、グループ同士で互いの発表を『観あう』ことで、もう一度、受け身・柔軟・畳の敷き方・固め技・投げ技などの技能を確認する機会をもたせた。さらに、どうしたら伝わりやすいか『気付いた』ことを『伝える』ことで、新たな気付きを生みだし、より一層理解を深めて安全に学習ができるよう授業の展開を工夫した。

8 成果と課題

学習の前後でマイナスイメージがどのように変化したか紙面による事後アンケートを実施したところ、どの学年でもマイナスイメージの改善がみられた。また、3年生で行ったアンケートでは、技能に関して『他者にアドバイスができる』という項目でも改善がみられるなど、グループ学習の成果があらわれていた。さらに互いにアドバイスすることや、アドバイスするときにどう伝えるかを考えることで、思考力や判断力を向上させることができた。

今後の課題としては、体育の授業で言語活動を活発に行うことを重視してしまうと運動量の確保が難しくなるため、言語活動と運動量の確保を意識して展開していく必要があると感じた。また、全ての生徒のマイナスイメージを取り除くことができなかつたため、より安全面に留意し、1年生から正しい受け身や技能を段階的にステップアップしながら定着させることで、『怖い・痛そう』というマイナスイメージを取り除くことを目標としていきたい。

9 予想される協議の柱

- ・武道の授業を行う中で、指導法や安全面に関する工夫
- ・言語活動を活用しながら運動量を確保する授業の工夫